

2019年度公認野球規則改正のポイント

令和元年5月31日
香川県軟式野球連盟学童部

1. タイブレーク（特別判定戦）方式について （2019競技者必携：21P 3参照）

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁走者はその前の打者とする。すなわち、0アウト1・2塁の状態にして1イニング行い得点の多いチームを勝ちとする。なおも同点の場合は、抽選で勝敗を決定する。但し決勝戦のみ1イニングで決着がつかない場合は、最長2イニングタイブレーク（特別判定戦）を行うことができるものとする。

【変更点】

2018年度までは、0アウト1・2・3塁の状態からタイブレークを行っていたが、2019年度は0アウト1・2塁の状態から始めることとする。

2. タイムの回数制限の追加事項について （2019競技者必携：23P 7(3), 8(2)参照）

* タイムの回数制限について

- ・ 守備側のタイム時間内に終了すれば、攻撃側がタイムを取っても、回数に数えない。
- ・ 攻撃側のタイム時間内に終了すれば、守備側がタイムを取っても、回数に数えない。

3. シートノックの追加事項について （2019競技者必携：24、25P 8(1)参照）

シートノック中、ブルペンでのコーチ1人の捕手を認める。（その場合必ずヘルメット、マスクの着用を義務づける）但し、試合開始までの間とする。

4. 投手の禁止事項変更について

(2019公認野球規則：102、103P参照)

規則6.02c項の(1)～(3)参照

- (1) 投球する手を口または唇につけた後にボールに触れること。
(但し、寒い日の試合前に両チーム監督の同意が取れば、
審判員は、投手が手に息を吹きかける事を認めることができる)
- (2) ボール、投球する手またはグラブに唾液をつけること。
- (3) ボールをグラブ、身体、着衣で摩擦すること。

ただし、投手は素手でボールを摩擦することは許される。

これらに違反した場合、球審は直ちにボールを交換し、投手に警告する。

なお、投手以外はこの限りではない。

【解説】

2018年度までは、競技者必携の規則適用上の解釈で上記(1)～(3)は、採用しないとしていたが、2019年度からは、採用することになり、その事項を削除した。

5. 投手の投球動作について

(2019競技者必携：163P 15.3参照)

投手が投球する際に1度離れた両手を再び合わせること、投げ手で、グラブを叩いたりすることを禁止する。膝に当てての投球も同様とする。この時審判員は、ランナーがいる場合、「ボーク」を宣言する。
なお、ランナーがいない場合は、注意とする。